

令和6年7月16日

上郷地域会議  
会長 毛受 輝夫 様

豊田市長 太田 稔彦

## 検討結果報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問し、答申を受けたことについて、下記のとおり報告します。

### 記

- 1 報告事項 令和6年1月16日に上郷地域会議から受けた『(仮称)ミライ構想』のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造に関する答申についての検討結果は別紙のとおり
- 2 主管課名 企画政策部 企画課、都市計画課

## 上郷地域会議からの答申に対する検討結果

	答申内容	<p>「(仮称) ミライ構想」のめざす姿とまちづくりの基本的な考え方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題の解決には「つながり」が不可欠であるため、「つながり」を重要視した「(仮称) ミライ構想」のめざす姿とまちづくりの基本的な考え方は妥当であると考えます。</li> <li>・一方で、説明資料の表現が抽象的であり、目指したい方向性が市民には理解しづらいとも考えます。そのため、各項目が設定された背景や項目ごとの目指すゴールを明記する等、より丁寧な説明をしたうえで市民に対して発信することを求めます。</li> <li>・また、説明に際しては、どの世代にも分かりやすく理解がより一層深まるよう、イラストやアニメーション動画を使用した説明資料を作成する等の工夫を図ることを期待します。</li> </ul>
1	市の考え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見のとおり、「つながり」については、多様な「人と人」「世代と世代」「人と地域、自然」とのつながりを通じた「気づき合い」「認め合い」「学び合い」が重要と考え、「(仮称) ミライ構想」に掲げています。</li> <li>・表現については、市民の皆様が理解しやすい説明や表現を工夫していきます。計画自体についても、市民の皆様にとって分かりやすい計画とするとともに、手に取りやすい図書となるよう工夫していくほか、動画など様々な媒体を活用しながら、まちづくりの方向性を市民の皆様と共有していく考えです。</li> </ul>

2	<p>答申内容</p>	<p>都市構造について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市は多くの町村と合併した市であるため、それぞれの地区を活かせるよう各拠点のサービス機能を確保する都市構造の考え方は妥当であると考えます。</li> <li>・しかし、考え方の中にある「都市」とは、どういったまちを指しているのか具体的に示すことを求めます。「都市」は名古屋市のようなビルが立ち並ぶまち等個人によって異なるイメージを持ってしまい、豊田市の目指す姿のイメージとの乖離が生じる懸念があるため、「都市」という言葉を具体的にすることで、都市構造に対する理解がより深まるものと考えます。</li> <li>・また、「えきちか居住誘導エリア」という表現は、「駅近」と「駅地下」の両方の捉え方ができてしまうため、例えば「えきすぐ居住誘導エリア」といった誤解を生まない表現に改めるか漢字表記にすべきであると考えます。</li> <li>・上郷地区においては、生活に必要な機能はあるものの、都市拠点として高水準な交通サービスの確保、都市・生活機能の集積を実感するに至っておりません。今後も都市拠点としての機能のさらなる拡充と高度化を図り、世代を問わず、将来に渡って安心して暮らし続けることができる街になることを期待します。</li> </ul>
	<p>市の考え</p>	<p>「都市」については市域全域を指すものとして表現していますが、ご意見のとおり、「都市部・山村部」のように特定の地域を指す場合もあることから、表現の方法について検討させていただきます。「まち」のイメージについては具体的に示すことは難しいですが、拠点を中心に居住や買い物、医療などの機能が集積することで暮らしの質の維持・向上が図られ、それぞれの拠点がつながりあうことで様々な循環や対流を生み出しながら地域の価値を高め合う将来都市構造の実現をめざしていきたいと考えております。</p> <p>えきちか居住誘導エリアは、鉄道駅が持つポテンシャルを最大限に活用し、安全で快適な市街地の形成に向けた取組の方向性を示すものです。ご意見を参考に、表現のほか、居住誘導に関する具体的な取組やその区域等について検討していきます。</p> <p>また、ご意見を踏まえ、都市拠点に求められる機能の集積に向けた取組について検討していきます。</p>

3	答申内容	<p>その他</p> <p>上郷地区の若い世代の方々は、大学進学や就職等により豊田市外に異動すると、そのまま離れて行ってしまふのが現状です。若い世代の方々が住みたい、市外に異動しても戻ってきたいと思えるよう、第9次総合計画の「(仮称)ミライ実現戦略2030」による魅力あるまちづくりを実現していただくことを願っています。</p>
	市の考え	<p>今後5年間で特に注力する取組の方向性をとりまとめる「(仮称)ミライ実現戦略2030」において、注力する視点として、①「こども」起点でまちづくりを考える。②誰もが「つながり合う」まちづくりを進める。③人を支える「まちの基盤」をつくる。を掲げています。</p> <p>若い世代を含むこどもたちが多様な場で、多様な人と世代とつながり多様な経験ができるまちづくりや人生100年時代に豊かな経験・活力を次世代につなぎ、高齢者を始め、大人たちがいきいき暮らす姿を伝えることで、まちへの愛着を育むとともに、こどもたちにミライに夢と希望をつくることを目指すことを重視したいと考えており、これにより若い世代が「住みたい」「戻ってきたい」まちづくりにつなげたいと考えています。</p>